

分科会2

音を楽しむ

～どうよむ・どうきく・オノマトペの絵本～

講師：大井 むつみ

(日本子どもの本研究会会員)

今年度の読み聞かせ講座は、講師に大井先生を迎え、参加者のみなさまにオノマトペの絵本の楽しさを実感していただきました。講座中、読み手を次々と変えて、合計17冊の絵本の読み聞かせを行いました。最後には、参加者全員で「かいだん」(『ことばあそび 3年生』理論社 2001 年)より)を朗読して、オノマトペの楽しさを体験しました。

- 『おどります』高島純/作 絵本館 2005
(読み手：県職員)
- 『がちゃがちゃどんどん』元永定正/さく 福音館書店 1990 (読み手：あいのみ文庫)
- 『ビビビビ』五味太郎/作 偕成社 1994
(読み手：講師)

＜自分が楽しいと思う絵本を読む＞

オノマトペの絵本は、読み手の感性で楽しめます。読み手が楽しめない本は、子どもたちに伝わりません。「名作」「必読」といわれているものでも、読み手がおもしろがれないなら、読まない方がいいと思います。

- 『あくび』中川ひろたか/文 飯野和好/絵 文溪堂 1999 (読み手：講師)



＜子どもたちが美しい日本語を獲得するために＞

子どもたちが母国語を獲得するのは大きな戦いです。1、2歳で爆発的にことばを覚えますが、母国語獲得のための基礎として、何が必要なのかを考えてほしいと思います。ことばを「早く覚える」ためではなく、「美しい日本語」を獲得するために、大人は気を配るべきです。最近、語彙の持ち合わせの少ない若者が多くなっています。これは「覚えたいことば」と出会っていないからなのではないでしょうか。出会うことばを「おいしい」「楽しい」「心地よい」と思ってもらうことが必要です。豊富な擬態語は日本語の特徴です。

- 『アブアアとアブブ』長新太/文・絵 ビリケン出版 2006 (読み手：県職員)
- 『カニツンツン』金関寿夫/ぶん 元永定正/え 福音館書店 2001 (読み手：あいのみ)

＜日本語のオノマトペについて＞

- 『ももこもこ』谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版 1977 (読み手：講師)

この絵本はひとりで黙読したらつまらない本です。読む人・聞く人が共感してこそ生きてきます。オノマトペは、感覚的なことばで、明確な意味はないので、幼児が直感的に理解することができます。絵本には効果的です。

- 「きゃきゅきよのうた」(『ことばあそび 3年生』理論社 2001 年)より) (朗読：講師)

井上ひさし氏は、『日本語教室』(新潮新書)で、「濁音と清音で印象がまったくちがう」と書いています。「コソコソ」と「ゴソゴソ」、(汗が)「タラタラ」「ダラダラ」「ポタポタ」「ボタボタ」…。私たちは、これを自然と使い分けをしています。

オノマトペは、自分でも作れます。これを子どもがおもしろがらないわけがありません。ぜひ、子どもたちと一緒に楽しみましょう。

- 「き」(『ことばあそび 3年生』理論社 2001

より) (朗読：講師)

- 『きつときってかってきて』ことばあそびの会/文 金川禎子/絵 さ・え・ら書房 1978 (読み手：講師)

『きつときってかってきて』はことば遊びの絵本ですが、一部分だけでもおもしろい。何冊か読んだ後におまけとして、もしくは導入として一部読むのもおすすめです。



<子どもたちに届けたいもの>

- 『ごろごろにゃーん』長新太/作・画 福音館書店 1984 (読み手：あいのみ)
- 『たあんきぼおんきたんころりん』長谷川摂子/文 降矢なな/絵 福音館書店 2006 (読み手：あいのみ)

『ごろごろにゃーん』は、知識偏重の絵本界に殴りこみをかけたと言ってもいい絵本です。でも、すべての子どもが喜ぶわけではないので、気にいった子どもが楽しめればそれでいいと思います。

ゼロ歳児は、ことばはしゃべれないけれど、擬音語・擬態語はおもしろがります。まわりの人たちがしゃべることばを一緒にたのしむことで、ことばの種を育てることになります。声にただで気持の明るくなるものを、もっと子どもたちに届けましょう。「役に立つ」からではなく、「おもしろいから」子どもに届けたいという気持ちが大切です。意味を考える前に、響きを楽しみましょう。

- 『つきよのおんがくかい』山下洋輔/文 柚木沙弥郎/絵 福音館書店 1999 (読み手：講師)

この絵本は、ジャズのリズムが聞こえてくるようですね。その人の感性で読めます。読み聞かせにおすすめですが、ひとりで読んでも楽しい絵本です。

- 『ドオン!』山下洋輔/文 長新太/絵 福音館書店 1995 (読み手：県職員)
- 『ぼたぼたとぶん』谷川俊太郎/文 今井弓子/絵 さ・え・ら書房 1979 (読み手：あいのみ)
- 『ぼぱーぺぽびぱっぷ』谷川俊太郎/文 おかざきけんじろう/絵 クレヨンハウス 2004 (読み手：あいのみ)

「ドオン!」は、以前おはなし会で読んだとき、赤ちゃんも喜んでよく笑っていました。大人の肉声で聞くということは、「ことばの種」「よろこびの種」を子どもたちに蒔くことです。楽しいことばの詰まった絵本を、子どもたちに手渡したいものです。まずは読み手が楽しみましょう。これが読書の原点です。

- 『もけらもけら』山下洋輔/ぶん 元永定正/え 福音館書店 1990 (読み手：講師)
- 『ゆかいなさんぼ』土方久功/さく・え 福音館書店 2011 (読み手：あいのみ)
- 「かいだん」(『ことばあそび3年生』理論社 2001 より) (朗読：参加者全員)
- 『おにぎりくんがね・・・』とよたかずひこ/さく・え 福音館書店 2008 (読み手：講師)

オノマトペ初心者向けの絵本です。この中に出てくる「しんぱいごむよう」は、子どもたちに言ってあげたいことばですね。

- 『ころころにゃーん』長新太/さく 福音館書店 2011 (読み手：講師)

長新太さんの遺作です。『ごろごろにゃーん』が代表作で、『ころころにゃーん』が遺作というのも、すてきですね。

おもねって笑いを取るのではなく、子どもたちが心から、楽しんで笑ってほしいと思います。ぜひ、オノマトペの絵本を、読み聞かせのレパートリーに加えてください。